

平成 29 年度 第 1 回学ぶ喜び・ESD 連続公開講座 概要報告

◇開催日時 平成 29 年 6 月 8 日（木）19 時～20 時 30 分

◇会場 次世代教員養成センター2 号館多目的ホール

◇参加者数 34 名

◇内容 「言語意識を育む小学校外国語教育実践」

講師：奈良教育大学教職大学院 教授 吉村雅仁 氏

1. 言語についてのクイズ

①世界に言語はいくつある（国の数は）？

国の数は 196 か国（日本政府が認めている数）

約 7000 語

②日本に言語はいくつある？ 15 (Ethnologue)

アイヌ語、琉球諸語、奄美語など

方言と言語の境目は実はあいまい。政治的でもある。

日本は単一民族、単一言語、単一文化ではない。

③国連の公用語の数は？

United Nations 第二次大戦後、連合側と言語 6 つ

英語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、アラビア語

④EU の公用語の数は？ 24

ヨーロッパの多様性を保持していこうという姿勢

⑤日本の公用語は？ 憲法などには規定はない（裁判所法のみ）

※日本にも世界にも多様な言語がある

宮崎県ニシモロ弁（小林市）

コミュニケーションできるかどうかで方言と言語をわけることはできない



2. 日本の言語状況は？

在留外国人は過去最高（2017）その内訳は

①中国人、②韓国人、③フィリピン人、④ベトナム人、⑤ブラジル人

※英語を使う人は少数派

(1) 社会の多言語化・多文化化（→内向き）

→ 言語・文化的少数派の権利を保障（教育、医療、司法）

英語以外の言語の通訳ができる人は足りていない

(2) 国際政治、経済上の戦略（→外向き）

→ 訪日外国人、外国人旅行者数 4000 万人計画（大半はアジア）

中国、台湾、韓国など

→ 留学生 30 万人計画（大半はアジア）

→ 特に近隣諸国、アラブ地域への外交

→ IOC の第一公用語はフランス語、第 2 公用語は英語

(3) 日本の学校教育現場では…

①日本語指導が必要な外国人児童生徒数（過去10年で最高）

ポルトガル語、中国語、フィリピン語などがほとんど

②日本語指導が必要な日本国籍の児童生徒数も急増している

フィリピン語、日本語、中国語

→ 英語だけでなく、多様な言語への対応が求められている



3. 日本の外国語教育をどうするか

(1) 多様な言語を使う人が国内に増えている

(2) 対外的にも多様な言語を使う人材が求められている

小学校から高校・大学まで英語教育だけで良い？

小学校高学年から始めて英語が身につく？

習得にはつながらないのでは

(3) 小学校外国語で求められていること・したいこと

「外国語教育の充実」

①小学校：中学年で外国語活動、高学年で外国語を導入すること

②小・中・高一貫した学びの重視、英語力の向上（コミュニケーションにかかわること）

国語教育との連携を図り、日本語の特徴や言語の豊かさに気づく指導（言語に関する気づき）

※言語についての気づきとコミュニケーションが重視されている

③ただし、「話す、聞く」の言語活動以外は、英語原則ではないとも解釈可能。

(4) 英語運用能力の育成

語学力修得の鍵は、言語意識を高めることにある。

言語意識・複言語複文化能力

・高学年では、教科書をつかって、中学年では副教材や指導書などを参考に授業を展開

ただし、児童の発達段階に見合う展開を考えるべき

現在、教科書等に記載されている内容は、学年の発達段階に比べて幼稚である。その学年で勉強していることを英語で表現させる（他教科との関連）

(例) 英語で数字を言わせる場合

中学年：What is this number? 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 100. では発達段階にあっているとは言えない

3÷3= 8÷5= などを取り扱ってはどうか？

・英語で動詞を考えさせる場合

めがねを（ ）、シャツを（ ）、ジーンズを（ ）、靴を（ ）

英語だと同じ単語 → 日本語と英語の違い・対比 → 子どもの思考力に結び付く

・言語への気づきをもっと直接的に高める ← 言語・文化に対する多元的アプローチ

○言語意識を高める

どの言語もルールがあることに気づかせる。

暗記や模倣ではなく、複数の言語を比べながら学ぶ（発見する過程を大事に）ことで、言語そのものの理解や言語の学び方（メタ言語能力）を身につけることができる。そのためには、英語と日本語だ

けでなく、多面的アプローチが効果的である。

○複言語能力

言語に対する気づきを高めることで言語習得が加速する。

使用している言語とはそれぞれの言語が並列して存在しているのではなく、混ざって統合したものの一部をつくっている

○言語とはルールにしばられているもの、そのルールには似ているものがある。推測できる。

○言語を相対化するためには、日本語と英語だけでは足りない。

○言語意識を高めるためには、多面的アプローチが効果的

また、言語的少数派の子どもが在籍している場合には、身近なクラスメイトを通じた多様性の理解や、グループ活動を行うことで、寛容性、協働性、コミュニケーション、他者やその差異性に対する敬意と受容といった、異文化間で生じる課題を達成する意思と能力が発達する。

○中等英語教育への見通し

内容言語統合型学習 言語のルール、類推、気づきを可能にする。

4. まとめ

(1) 言語意識を高める多面的アプローチ

- ・多面的アプローチは、反英語教育の方便ではない。どの言語習得にも役立つ方法論である。
- ・英語だけでなく、どの言語活動・教育にも取り込むことが可能なアプローチである。
- ・学習者がどのような言語背景を持っていても対応することができる方法論である。

(2) 英語授業の基本的な進め方

- ・基本的には、児童の発達段階を考慮しながら、求められる時間で、教科書を使用して教える。
- ・教員自身の英語運用能力と言語意識が重要となるので、ALTとの協働で取り組む。

